

アジア主要港の混雑、10月も注意

ー 上海・寧波を中心に、年末まで影響が続く可能性もー

2026年9月、アジアの主要港では、港湾混雑による船舶スケジュールの乱れが続いています。特に中国の**上海港・寧波港**では、相次ぐ台風による一時的な港湾閉鎖や荷役の遅れに加え、滞留していた船舶・コンテナが集中したことで、混雑が長引いています。9月上旬の報告では、上海・寧波の一部ターミナルで船舶の待機時間が最大10～12日程度に達しておりなした。また、船舶の定時到着率を見ると、7月の上海港は21.0%、寧波港は34.6%まで低下。シンガポール、香港、釜山、ポートクリンなどを含むアジア主要14港すべてで、前月より定時運航率が悪化しました。

今回の混雑は、台風だけが原因ではありません。港湾閉鎖によって遅れた船舶が港の再開後に集中し、その遅れが次の寄港地や次航海にも引き継がれる「連鎖的な遅延」が発生しています。さらに、10月1日から始まる中国の国慶節を前に、出荷を前倒しする貨物が増えることで、10月にかけても再び港湾やコンテナヤードが混雑する可能性があります。

特に注意したいのは、**混雑の影響が10月だけで終わらない可能性がある**ことです。船舶の遅延が続けば、本船の抜港や寄港地変更、積み残し（ロール）、コンテナ不足などが発生し、予定していた輸送スケジュールそのものが組み直されるケースがあります。実際、9月には上海港の寄港を取りやめ、別の港へ振り替えるなど、船会社による運航スケジュールの変更も確認されています。

現時点では、10月後半にかけて港湾混雑が徐々に改善するとの見方もあります。一方で、滞留した船舶・コンテナが完全に解消されなければ、その後の航海にも遅れが引き継がれ、**年末まで物流への影響が残る可能性もあります**。

年末は貨物量が増える時期でもあり、混雑が重なれば輸送スペースやコンテナの確保が難しくなることも考えられます。荷主企業にとっては、通常より余裕を持った輸送計画が重要です。10月以降に中国・東南アジアとの輸出入を予定している場合は、早めのブッキングに加え、本船の変更や代替便、利用港の変更なども視野に入れる必要があります。

また、フォワーダー側でも、港湾の混雑状況や本船の遅延、コンテナの確保状況を早めに確認し、荷主へ情報共有することが重要です。

アジアの港湾混雑が年末まで続くとは限りませんが、**台風や貨物集中、船舶スケジュールの乱れなど複数の要因が重なっているため、今後もしばらく注意が必要です**。「遅れてから対応する」のではなく、早めに輸送計画を見直すことが、安定した物流につながりそうです。



新洋海運の強み



ベトナムの法規制をリアルタイムでサポート

ベトナムでの輸出入には、関税・通関手続きだけでなく、品目ごとの輸入規制、必要書類、税制、検査制度など、現地特有のルールへの対応が求められます。特に法規制や通関ルールは変更されることもあり、最新情報の把握が遅れると、通関の遅延や追加費用、貨物の保留など、物流に大きな影響を及ぼす可能性があります。

新洋海運では、ベトナム現地に日本人駐在員を配置しているため、現地で発生する法規制や通関上の変更・注意点をリアルタイムに把握し、日本のお客様へ迅速に情報提供できることが強みです。現地で直接情報を確認できるからこそ、インターネットなどでは把握しにくい現場の状況や、実務上の注意点についても迅速に共有することができます。現地スタッフとの連携に加え、日本人駐在員が現地の状況を直接確認することで、日本のお客様にも分かりやすく情報を共有。輸出入を行う前の事前確認や、規制変更への対応についてもご相談いただけます。

単に貨物を運ぶだけでなく、「現地で今、何が起きているのか」を日本側へ迅速に伝え、問題が発生する前に対応することで、ベトナムとの安定した輸出入物流をサポートします。